

画像技術で診断支援

イノテックがシステム 医療分野を開拓

【広島】イノテック（広島市中区、伊藤賢治社長、082・544・0011）は、ひざ関節

診断支援システムなど、医療用診断支援システムを拡販する。自社の画像処理技術を生かし景気動向の影響を受けやすい産業分野の依存度を下げる。近く脊椎診断支援システムなども商品化する予定で、中期的に医療分野を売り上げの30%まで引き上げる計画だ。

ひざ関節診断支援システム「KOACAD」は

東京大学大学院医学研究科と共同開発し、2010年7月に商品化した。評価が難しいとされていたひざ関節の診断を、デジタルX線写真で自動分

析し、信頼度の高い評価につなげるシステム。独自の画像処理技術を用い、軟骨の劣化状況などを瞬時に計測して測定結果を提供する。

従来はレントゲン画像を肉眼で判断するだけで、定量的な分析システムはなかったという。評価者によってバラつきが

大きかったが、このシステムで客観的な指標を得られる。発売以降、大学や公的機関など数件の納入実績がある。

これに続き、同様の画像処理技術を応用し脊椎の診断支援システムの開発も完了した。すでに商品化済みの汎用デジタル画像用寸法・粒子計測ソフト「quick grain」などと合わせ、医療分野を開拓する。

同社の主力は産業用の画像処理システム。黒鉛の球状化率測定システム

など、特徴ある製品が多い。顧客層が自動車関連、電機など製造業中心で、業績が安定しなかった。